＜資料＞

西村関一：年譜と著作

北　村　裕　明

以下に掲載するものは，本誌275号に掲載した拙稿「キリスト教社会主義の一展開―西村関一の生涯と思想―」の資料編であり，紙幅の関係で同号に掲載できなかったものである。

本年譜及び著作目録は，現在までの所，筆者が把握しているものである。とりわけ西村の著作を現時点で完全に集めることは，西村の著作がまとめて保存されておらず，また西村の活動が多面的であったが故に極めて困難であり，したがって本著作目録にはいくつかの脱漏があるものと思われる。しかし，現在まで筆者が把握しているところを明かにすることによって，今後より完備されたものにする一助となると考え，あえて掲載する次第である。間違った記述，抜け落ちている事実や著作があれば，御指摘いただければ幸いである。

西村関一　年譜

1900(明治33)年		6月4日，大津市三井寺下に，関西の大侠客常世川(西村由之助)，八重の長男として生まれる。
1916(大正5)年	16才	馬場鉄道キリスト教青年会の聖書講義に通い始める。
1917(大正6)年	17才	4月，膳所中学在学中にキリスト教に入信，大津組合教会にて三谷公一牧師より洗礼を受ける。
1918(大正7)年	18才	3月，滋賀県立膳所中学校を卒業。4月，古川拓殖株式会社入社，フィリピン国ミンダナオ島ダバオにて開

拓事業に従事する。

1919(大正８)年　19才　志なかばにしてアメーバー赤痢，マラリアに冒り帰国する。

1920(大正９)年　20才　山口県秋吉台に本間俊平先生を訪ね，薫陶をうける。12月，一年志願兵として大津の兵営に入営，翌年見習仕官となる。

1922(大正11)年　22才　静岡県小田原市土建業田中組に入り丹那トンネル開削鉄道建設等の土工の生活にはいるが，病を得て近江に帰る。９月，ウイリアム・メレル・ヴォーリズの招きにより，近江ミッション同人となる。10月，近江八幡キリスト教青年会主事となる。

1923(大正12)年　23才　土山鉄次博士の宣教精神に打たれて自由メソジスト神学校に学びつつ，毎週土・日・月の３日，堅田にて伝道活動を行う。

1924(大正13)年　24才　３月30日，堅田伝道所にて最初の受洗者７名をえる。

1925(大正14)年　25才　２月，父由之助死去。

1927(昭和２)年　27才　自由メソジスト神学校を卒業し，堅田に定住して伝道活動を行う。４月25日，近江八幡教会にて錦織ゆき枝（22才）と結婚（媒酌人・東洋紡営繕部長昆真造・三尾夫妻，司会・土山鉄次氏，堅田町長出席）する。

1928(昭和３)年　28才　自由メソジスト神学校講師となる。４月，長女双葉生まれる。８月，キリスト教滋賀県連盟発足に参加し，初代連盟委員となる。

1929(昭和４)年　29才　３月，西村の校長で，湖畔国民高等学会を堅田にて開催する。

1930(昭和５)年　30才　７月，湖畔国民学会中等部を堅田伝道所に於て開催する。12月，堅田キリスト教会館献堂式。

1931(昭和６)年　31才　３月，江西義塾第１回卒業式を行い，９名の卒業生を

送り出す。6月，次女早百合生まれる。

1933(昭和8)年　33才　3月，三女美佐子生まれる。

1934(昭和9)年　34才　3月，近江兄弟社教務部幹事となる。

1936(昭和11)年　36才　4月，長男淳生まれる。10月，14年にわたる伝道の地・堅田をさり，近江兄弟社本社に転任する。

1937(昭和12)年　37才　近江八幡組合キリスト教会牧師となる。

1938(昭和13)年　38才　11月，中国東北部及びモンゴルを訪れる。

1939(昭和14)年　39才　7月，次男厚生まれる。

1940(昭和15)年　40才　近江兄弟社外地委員として，ヴォーリズ氏らと共に朝鮮，中国を訪れる。

1942(昭和17)年　42才　保護司となる。7月，上海，杭州等を訪れる。

1944(昭和19)年　44才　6月，4女光世生まれる。7月，敦賀連隊に入隊，歩兵小隊長として中支の嵐部隊に配属。

1946(昭和21)年　46才　6月，帰国する。11月，日本キリスト教団堅田教会牧師となる。

1948(昭和23)年　48才　2月，三男協生まれる。滋賀県児童福祉審議会委員(委員長，55年1月まで)，滋賀地方労働基準審議会委員，滋賀県地方労働委員会委員(公益代表，55年1月まで)を歴任する。

1949(昭和24)年　49才　大津家庭裁判所委員，参与，調停委員，滋賀刑務所宗教悔師特殊面接委員となる。9月，次男厚死去。

1951(昭和26)年　51才　2月，母八重死去。4月，堅田教会牧師館献屋式。滋賀県社会福祉協議会副会長（55年1月まで）となる。

1952(昭和27)年　52才　大阪キリスト教学院・同短期大学講師となり，「農村伝道」等を担当する。12月，国際児童福祉研究会議（ボンベイ市）及び第6回国際社会事業会議（マドラス市）日本代表としてインドに出張，世界教会会議（ラクナウ市）に出席し，帰途インド各地，パキスタン，イス

ラエル，タイ，ビルマ，フィリピンの各国を歴訪（53年2月帰国），その際フィリピン・モンテンルパに日本人戦犯を訪れ，その声を録音する。

1953(昭和28)年　53才　7月，東洋紡績宮田浜工場（四日市市）のキリスト教女工解雇事件の調停にあたる。

1954(昭和29)年　54才　地労委会長代理として，江若鉄道，琵琶湖汽船の争議調停にあたり，さらに近江絹糸争議の調停にあたる。10月，日本社会党に入党。滋賀県知事選挙の革新統一候補として推されるが辞退する。

1955(昭和30)年　55才　近江兄弟社を退社する。2月，左派社会党公認候補として，第27回衆議院選挙に出馬するが，落選（38,585票，7位)する。NCC文芸事業部の第4回懸賞短編小説で，中国東北部の体験にもとずいた「揚子(ヤンズ)」の作品によって第1位をうる。

1957(昭和32)年　57才　4月，キリスト教労働大学を大津市で開催する。6月，長男淳死去。

1958(昭和33)年　58才　5月，日本社会党公認候補として，第28回衆議院議院選挙に出馬，初当選（滋賀選挙区，52,299票，4位）する。7月，国会での初質問を，未解放部落の入会権問題で行う（農林水産委員会)。

1959(昭和34)年　59才　アメリカ合衆国太平洋岸キリスト教連盟並びに，西ドイツエバンゲリシェ・アカデミィーより招待を受け，アメリカ合衆国を2カ月，西ドイツ，フランス，オーストリア，スイス，イタリア，ギリシャ，イスラエル，インド等を旅行する。

1960(昭和35)年　60才　日米安全保障条約の批准に反対し国会内外で活動する。アメリカで終身刑を受けている元日本軍属・川北友也氏の釈放嘆願運動を行う。11月，第29回総選挙で再選

（59,474票，1位当選）される。

1962(昭和37)年　62才　キリスト者部落対策協議会第1回全国大会で会長に選出される。スウェーデンで開催された「全般的軍縮と平和のための世界会議」準備会に，日本代表として平野義太郎氏と共に出席，イギリス，エジプト等を歴訪，ロンドンでB.ラッセル卿と会見する。7月，愛知川ダム問題で断食を行う。ベトナムを訪問する。世界連邦日本国会委員会事務総長となる。

1963(昭和38)年　63才　日本ユネスコ国内委員会委員（73年7月まで）となる。日朝協会訪朝代表団の代表として，北朝鮮を訪問。11月，第30回総選挙で三選（56,720票，5位当選）される。

1965(昭和40)年　65才　1月，北ベトナムを訪問，ホー・チ・ミン首相と会見する。7月，ベトナム緊急会議特使としてアメリカ合衆国を訪問する。同月，大阪キリスト教短期大学理事となる（没年まで）。

1966(昭和41)年　66才　2月，日本ソビエト友好協会訪ソ団長としてソ連邦を訪れ，コスイギン首相らと会見する。5月，ジュネーブで開催の世界教会協議会の「教会と社会」世界会議に出席，ヨーロッパ各国を歴訪する。

1967(昭和42)年　67才　1月，第31回総選挙で落選（40,873票，次点）するが，6月，参議院補欠選挙で当選（滋賀選挙区，115，344票）し，国会に復帰する。ジュネーブで開催された国際平和集会に日本代表として出席する。8月，オスロで開催された第13回世界連邦主義者世界協会(WAWF)世界大会に出席，名誉理事長に選出される。

1968(昭和43)年　68才　7月，第8回参議院議員選挙で再選（175,007票）される。8月，ソ連邦及び，北朝鮮を訪問。

1970(昭和45)年　70才　11月，勲二等瑞宝章をうける。

1971(昭和46)年　71才　7月，オスロにおける世界連邦国際会議に出席する途上，インドに立ち寄り，東パキスタン難民キャンプを視察，ガンジー首相と会見する。

1972(昭和47)年　72才　1月，北ベトナムを訪問，ファン・バン・ドン首相らと会見する。4月，超党派の国会議員からなる「ベトナム問題議員懇話会」を発足させ，総主事となる。

1973(昭和48)年　73才　2月，ベトナムに関する緊急国際会議（ローマ世界大会）に日本代表団の一員として，古在由重，田英夫氏らと共に出席。6月，北ベトナムを，星野力，金子満広，瀬長亀次郎氏と共に訪問，チュオン・チン国会常務委員会委員長らと会見する。7月8日，来日中の金大中氏と会見する予定直前に，金大中氏が拉致され韓国に連れ去られる。10月，「インドシナ人民支援キリスト教センター」の設立を呼びかけ，設立総会で講演を行う。12月，ソウルの自宅に金大中氏を訪れ会見する。

1974(昭和49)年　74才　滋賀県知事選挙に当たり革新統一候補の擁立・当選に力をつくす。近江兄弟社学園理事長（75年3月まで）となる。5月，韓国光州矯導所に囚われている徐俊植氏に面会会見，またソウルで金大中氏と再会する。7月，参議院議員の任期を満了する。

1975(昭和50)年　75才　2月，日本社会党滋賀県本部委員長となる。デンマーク国エルシノア市における世界連邦主義者世界協会執行委会ならびにスイス国サンガレン市におけるアムネスティ・インターナショナル国際会議に出席の帰途，バンコクにて発病，緊急手術を受ける。

1976(昭和51)年　76才　10月，猪俣浩三氏の後を受けて，アムネスティ・インターナショナル日本支部理事長となる（78年6月ま

で)。

1977(昭和52)年　77才　12月，世界連邦主義者世界協会アジア会議の責任者として，ニューデリーとカルカッタに出向く。

1978(昭和53)年　78才　10月，世界連邦主義者世界協会理事会および執行委員会出席のため訪米，ジョージ・トーヤー氏と再会する。

1979(昭和54)年　79才　8月15日，午後2時22分，国立滋賀医科大学付属病院に於て死去，享年79才，正4位に叙される。

西村関一　著作目録

救はれるまで(一)	「湖畔の声」95号	1920(大正9)年10月
救はれるまで(二)	「湖畔の声」96号	11月
救はれるまで(三)	「湖畔の声」98号	1921(大正10)年1月
西江州伝道旅行記	「湖畔の声」122号	1923(大正12)年3月
イエスキリストによれる救	「湖畔の声」124号	5月
憧憬より服従へ	「湖畔の声」140号	1924(大正13)年9月
平凡の偉人	「湖畔の声」144号	1925(大正14)年1月
農村伝道私見	「湖畔の声」145号	2月
農村伝道私見(承前)	「湖畔の声」146号	3月
父を失ひし子より	「湖畔の声」146号	3月
丁抹国民高等学校の二恩人に就て	「湖畔の声」170号	1927(昭和2)年4月
湧き上れ，泉よ	「湖畔の声」171号	5月
農村の英雄―升崎外彦氏のこと―	「湖畔の声」183号	1928(昭和3)年5月
愛の労苦	「湖畔の声」185号	7月
神の能力なる十字架	「湖畔の声」191号	1929(昭和4)年1月
思い出の数々	「湖畔の声」200号	10月
第二回湖畔国民高等学会の記	「湖畔の声」208号	1930(昭和5)年6月
福音の能力	「湖畔の声」231号	1932(昭和7)年5月

村に帰ってゆく姉妹に	「湖畔の声」237号	11月
福音伝道による生活	「湖畔の声」239号	1933(昭和8)年4月
兄弟愛の交りに就て	「湖畔の声」244号	6月
湖北の村々を巡りて(一)	「湖畔の声」247号	9月
ロビンソン・クルウソオ	「湖畔の声」22巻8号	1934(昭和9)年8月
逝ける矢部牧師	「湖畔の声」23巻10号	1935(昭和10)年10月
心の王座に主を迎えよ	「湖畔の声」23巻12号	12月
ガリラヤの春	「湖畔の声」24巻4号	1936(昭和11)年4月
近江の自然(一)	「湖畔の声」24巻8号	8月
トラピスト修道院を訪ふ	「湖畔の声」24巻12号	12月
キリスト教の第一義	「湖畔の声」25巻1号	1937(昭和12)年1月
追ひかけの祈禱	「湖畔の声」25巻2号	2月
兵隊さんと子ども	「湖畔の声」25巻2号	2月
明けゆく湖	「湖畔の声」25巻3号	3月
明けゆく湖(その二)	「湖畔の声」25巻4号	4月
明けゆく湖(その三)	「湖畔の声」25巻5号	5月
明けゆく湖(その四)	「湖畔の声」25巻6号	6月
明けゆく湖(その五)	「湖畔の声」25巻7号	7月
近江の自然とキャンプ	「湖畔の声」25巻8号	8月
明けゆく湖(その六)	「湖畔の声」25巻8号	8月
明けゆく湖(その七)	「湖畔の声」25巻9号	9月
明けゆく湖(その八)	「湖畔の声」25巻11号	11月
明けゆく湖(その九)	「湖畔の声」25巻12号	12月
明けゆく湖(その十)	「湖畔の声」26巻1号	1938(昭和13)年1月
明けゆく湖(その十一)	「湖畔の声」26巻2号	2月
明けゆく湖(その十二)	「湖畔の声」26巻3号	3月
荒廃の村を日本一の優良村にした基督者村長の話	「湖畔の声」26巻4号	4月

明けゆく湖(その十三)	「湖畔の声」26巻4号	4月
明けゆく湖(その十四)	「湖畔の声」26巻5号	5月
明けゆく湖(その十五)	「湖畔の声」26巻8号	8月
明けゆく湖(その十六)	「湖畔の声」26巻9号	9月
蒙古紀行	「湖畔の声」27巻2号	1939(昭和14)年2月
蒙古紀行	「湖畔の声」27巻5号	5月
御下賜金拝受の栄光に感激す	「湖畔の声」30巻2号	1942(昭和17)年2月
中支の旅	「湖畔の声」30巻9号	9月
上海と杭州	「湖畔の声」30巻10号	10月
江南ところどころ	「湖畔の声」30巻11号	11月
江南ところどころ	「湖畔の声」30巻12号	12月
よろこびの泉―未亡人のために―	「湖畔の声」36巻12号	1948(昭和23)年12月
金雀の花に寄せて	「湖畔の声」37巻8号	1949(昭和24)年8月
復活の偉力	「湖畔の声」38巻4号	1950(昭和25)年4月
思い出	「湖畔の声」38巻6号	6月
軛を負うもの	「湖畔の声」40巻4号	1952(昭和27)年4月
恵の水脈	「湖畔の声」40巻10号	10月
湖国の皆さんへ―印度だより―	「滋賀新聞」	1953(昭和28)年1月5日
印度から，佛蹟サルナクへ(上)	「滋賀新聞」	1月12日
印度から，佛蹟サルナクへ(下)	「滋賀新聞」	1月13日
モンテンルパの同胞を訪ねて	「ニュー・エイジ」5巻4号	4月
インド紀行	「湖畔の声」41巻4号	4月
インド紀行(2)	「湖畔の声」41巻5号	5月
イスラエル紀行1，変貌ゆく聖地	「キリスト新聞」	6月27日
インド紀行(3)	「湖畔の声」41巻7号	7月
イスラエル紀行2，四十年の若い都市		

「キリスト新聞」　7月4日
イスラエル紀行3，婦人団体の活動「キリスト新聞」　7月11日
イスラエル紀行4，古きエルサレム「キリスト新聞」　7月18日
インド紀行(4)　「湖畔の声」41巻8号　8月
イスラエル紀行5，自然と建築の調和
「キリスト新聞」　8月1日
イスラエル紀行6，夕陽に映える聖都
「キリスト新聞」　8月8日
イスラエル紀行7，古都のあちこち「キリスト新聞」　8月15日
イスラエル紀行8，エルサレムの夕陽
「キリスト新聞」　8月22日
イスラエル紀行9，労働組合の力　「キリスト新聞」　8月29日
インド紀行(5)　「湖畔の声」41巻9号　9月
イスラエル紀行10，葡萄の丘集団農場
「キリスト新聞」　9月5日
イスラエル紀行11，進む荒地の開発「キリスト新聞」　9月12日
イスラエル紀行12，会堂に守る安息日
「キリスト新聞」　9月26日
信仰と労働問題　「湖畔の声」41巻10号　10月
イスラエル紀行14，「マルベン」社会事業施設
「キリスト新聞」　10月10日
イスラエル紀行15，ガリラヤへの道「キリスト新聞」　10月31日
インド紀行(6)　「湖畔の声」41巻11号　11月
イスラエル紀行16，ガリラヤ湖畔の陶藝家
「キリスト新聞」　11月7日
イスラエル紀行17，湖畔の幻想　「キリスト新聞」　11月14日
イスラエル紀行18，カペナウムの廃虚
「キリスト新聞」　11月28日

インド紀行(7)　「湖畔の声」41巻12号　12月

イスラエル紀行19, ヨルダン河の畔り

「キリスト新聞」　12月12日

インド紀行(8)　「湖畔の声」42巻1号　1954(昭和29)年1月

イスラエル紀行20, ヨルダン河の畔り(続)

「キリスト新聞」　1月23日

インド紀行(9)　「湖畔の声」42巻2号　2月

イスラエル紀行21, ナザレからハイファへ(上)

「キリスト新聞」　2月6日

イスラエル紀行22, ナザレからハイファへ(下)

「キリスト新聞」　2月20日

イスラエル紀行23, 忘れ得ぬ人々(上)

「キリスト新聞」　2月27日

インド紀行(10)　「湖畔の声」42巻3号　3月

ブータンの女王にあう　「世界国家」8巻3号　3月

イスラエル紀行24, 忘れ得ぬ人々(下)

「キリスト新聞」　3月6日

インド紀行(11)　「湖畔の声」42巻4号　4月

インド紀行(12)　「湖畔の声」42巻5号　5月

インド紀行(完)　「湖畔の声」42巻6号　6月

五十歩と五十一歩—私鉄争議の調停斡旋に当たって—

「キリスト新聞」　6月12日

新生　「湖畔の声」42巻8号　8月

夏川喜久次氏へ公開状——人の友人としての立場から—

「キリスト新聞」　8月28日

ベテスダ池畔のイエス　「湖畔の声」42巻11号　11月

ベテスダ池畔のイエス　「湖畔の声」43巻12号　1955(昭和30)年12月

揚子(ヤンズ)　「ニュー・エイジ」8巻1号　1956(昭和31)年1月

牧師代議士“赤い絨毛”を行く(1),初の堂々巡り19回
「キリスト新聞」　1958(昭和33)年6月21日
牧師代議士“赤い絨毛”を行く(3),封建性を培う“先生”
「キリスト新聞」　7月5日
牧師代議士“赤い絨毛”を行く(4),除ろに初質問の勉強
「キリスト新聞」　7月12日
牧師代議士“赤い絨毛”を行く(5),大臣答弁は夜作られる
「キリスト新聞」　7月19日
素晴しい音楽会—指揮はオーストラリアのコンツ—
「湖畔の声」47巻9号　1959(昭和34)年9月
教会日に出席して,五十字のもとの信徒運動(上)
「キリスト新聞」　9月26日
教会日に出席して,賛美の歌声はひびく(下)
「キリスト新聞」　10月3日
平和運動の斗士・ニーメラー博士会見記
「キリスト新聞」　10月10日
見捨てられた子らの家—ステッテン治療教育院を視る—
「キリスト新聞」　10月17日
エバンゲリッシェ・アカデミイの印象(1),教会と社会の懸け橋
「キリスト新聞」　11月7日
エバンゲリッシェ・アカデミイの印象(2),神の愛に立つ組織
「キリスト新聞」　11月14日
教会と社会　「湖畔の声」48巻1号　1960(昭和35)年1月
アウグスブルクの一日　「月刊キリスト」12巻12号　12月
ケネディ政権の誕生　「キリスト新聞」　1961(昭和36)年2月11日
基督者委員長の就任　「キリスト新聞」　3月25日
ミサイルの島で　「キリスト新聞」　5月6日
福音と侠客道と(インタビュー)

「月刊キリスト」13巻6号　6月

非理法権天　「キリスト新聞」　6月17日

ある町長さんのこと　「キリスト新聞」　7月29日

神の栄光の顕われんがために　「湖畔の声」49巻8号　8月

荒木文相の失言について　「キリスト新聞」　9月9日

団体的利己心　「キリスト新聞」　10月21日

軍縮への途を開こう—核実験再開反対決議に当たって—

「キリスト新聞」　12月2日

一平凡人の生涯　「湖畔の声」50巻2号　1962(昭和37)年2月

“部落問題と私”いと小さき者の代弁者として

「キリスト新聞」　3月17日

ロンドンの印象—イーストマン牧師とともに—

「キリスト新聞」　6月23日

ストックホルムからカイロへ1，狭い地球の北国へ—あこがれの森・湖・平野—

「キリスト新聞」　6月30日

ストックホルムからカイロへ2，波乱も杞憂に終わって—世界大会の準備—

「キリスト新聞」　7月14日

ストックホルムからカイロへ3，生活の中に美を再現—町全体が水の公園—

「キリスト新聞」　7月28日

ストックホルムからカイロへ4，岩の上に建ちならぶ家—社会党政権と王さま—

「キリスト新聞」　8月11日

ストックホルムからカイロへ5，運河に沿う歴史の流れ

—充実した博物館の二時間—　「キリスト新聞」　8月25日

ストックホルムからカイロへ6，ラッセル卿と英国労働党—除名当時の会見記—

「キリスト新聞」　9月8日

ストックホルムからカイロへ7，壮大なナイルの景観—悠久の神秘をたたえ—

「キリスト新聞」　9月22日

父のこと　「近江の次郎長常世川」　1964(昭和39)年

北鮮で闘う祈る人(上),抵抗から更生への道
「キリスト新聞」　1月1日
北鮮で闘う祈る人(下),反米思想は不信仰か
「キリスト新聞」　1月11日
湖上の再会　「湖畔の声」53巻10号　1965(昭和40)年10月
河上丈太郎先生を語る,温情と徹底した祈り,浄光寺平和の鐘に名を刻む
「キリスト新聞」　1966(昭和41)年1月1日
国会での祈禱会と河上先生　「信徒の友」　3月
天使に囲まれて―光世の記―　「湖畔の声」55巻9号　1967(昭和42)年9月
ロポさんとフィンランドの人たち
「湖畔の声」55巻10号　10月
娘からの手紙　「湖畔の声」55巻11号　11月
フィンランドの精薄施設を訪ねて
「湖畔の声」55巻12号　12月
自分を語る　「関友」　1968(昭和43)年3月
北朝鮮の印象　「信徒の友」　1969(昭和44)年1月
社会党はこれでいいのか　「信徒の友」　9月
ハープ弾く娘―身障を超えた光世のこと―
「婦人の友」63巻9号　9月
私の転機　「湖畔の声」57巻12号　12月
クリスマスに思う　「別冊東京青年」12号　1971(昭和46)年1月
ベンガルの嵐1,森の村の悲惨な病院
「キリスト新聞」　9月11日
ベンガルの嵐2,ガンジー首相の苦悩
「キリスト新聞」　9月18日
教会と社会　「湖畔の声」679号　2月
ハノイをたずねて1,余裕ある戦時下状態
「キリスト新聞」　3月4日

ハノイをたずねて2，日本との交流を希望
「キリスト新聞」　3月11日
ハノイをたずねて3，明るいハノイの表情
「キリスト新聞」　3月25日
吉田悦蔵を偲ぶ　「湖畔の声」688号　11月
松本勝司氏の追憶　「原始福音」146号　11月12日
ベトナムに平和を　「原始福音」154号　1973(昭和48)年1月7日
最初の確信を最後まで(一)　「湖畔の声」692号　3月
ベトナム復興への歩み―ローマ会議に出席して―
「原始福音」163号　3月11日
ベトナムの大義(上)　「キリスト新聞」　3月31日
最初の確信を最後まで(二)　「湖畔の声」693号　4月
ベトナムの大義(下)　「キリスト新聞」　4月7日
聖書の預言に立つ国　「原始福音」170号　4月29日
ハノイへの旅　「原始福音」179号　7月1日
ハノイ訪問記，蓮の花とホー・チ・ミン，あの爆撃の傷痕
「キリスト新聞」　7月21日
ハノイ訪問記，蓮の花とホー・チ・ミン，ベトナム人の寛容
「キリスト新聞」　8月4日
ハノイ訪問記，蓮の花とホー・チ・ミン，忘れない昔のこと
「キリスト新聞」　8月11日
宣教の幻に立ち返って　「原始福音」194号　10月21日
失われし者への愛　「原始福音」199号　11月25日
金大中氏に会う1，苦難負う政治家に
「キリスト新聞」　1974(昭和49)年2月9日
金大中氏に会う2，尊敬と友愛の気持
「キリスト新聞」　2月16日
神の人，信仰の勇者―手島郁郎先生のこと―

「キリスト新聞」　2月23日

金大中氏に会う3，ゆるぎない関係を

「キリスト新聞」　3月2日

私の生命は民衆と共に—金大中氏と再会—

「キリスト新聞」　6月15日

現地踏査—コンソン島「虎の檻」で今も呻吟する政治犯—

「流動」　10月

ベトナムのよろこび　「湖畔の声」714号　1976(昭和51)年1月

殉愛の道—ある聖餐式において—「湖畔の声」717号　4月

オーストリアアルプスの町バッドガスタインの思い出

「湖畔の声」718号　5月

理事長就任に当たって　「ニュース・レター」　10月17日

恵みと悲しみ—福音書ルカ7・11—17—

「湖畔の声」727号　1977(昭和52)年2月

山田寅之助さんのこども　「湖畔の声」730号　5月

私の人生—人生知己に感ず—　「滋賀日日新聞」　6月22日

国際人権規約批准急げ—今も獄中の政治犯50万—

「産経新聞」　11月4日

私はなぜ刑務所伝道をするか　「獄の友」3号　12月

より深く根を張る運動を—1978年の年頭にあたって—

「ニュース・レター」　1978(昭和53)年1月

インドと私—あるインド人夫妻の話—

「メソドス」46号　4月

堅田伝道物語(一)　「湖畔の声」740号　4月

堅田伝道物語(二)　「湖畔の声」741号　5月

堅田伝道物語(三)　「湖畔の声」742号　6月

堅田伝道物語(四)　「湖畔の声」743号　7月

日本支部の会員の皆様に　「ニュース・レター」　7月

堅田伝道物語(五)	「湖畔の声」744号	9月
堅田伝道物語(六)—忘れ得ぬ人々　その一—	「湖畔の声」745号	10月
堅田伝道物語(七)—忘れ得ぬ人々　その二—	「湖畔の声」746号	12月
アメリカ紀行余滴(上)	「キリスト新聞」	1979(昭和54)年1月27日
アメリカ紀行余滴(下)	「キリスト新聞」	2月3日
堅田伝道物語(八)—忘れ得ぬ人々　その三—	「湖畔の声」747号	3月
堅田伝道物語(九)—忘れ得ぬ人々　その四—	「湖畔の声」748号	6月
徐俊植君への手紙	「世界」405号	8月

良き自然, 良き父, 良き友, 良き師（1972年筆）

恩寵無尽（1978年筆）

給仕する者のように（1972年3月12日説教抄録）

われ山に向いて眼をあぐ（1978年筆）

アメリカ紀行余滴

曹操の古詩

徐俊植君への手紙

以上「日本キリスト教団堅田教会機関誌」第5号

（故西村関一牧師召天三周年記念）　1982(昭和57)年8月